

## 基準 8 施設・設備

## (1) 観点ごとの分析

観点 8 - 1 - : 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

## (観点到に係る状況)

本校の施設概要は資料 8 - 1 - - 1 及び資料 8 - 1 - - 2 に示すとおりであり、校地、各種施設など高等専門学校設置基準の第 6 章「施設および設備等」の条件を満足している。また、施設・設備は、平成 12 年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に整備・充実に図られている。同時に平成 18 年 6 月 1 日付の「同計画書」（資料 8 - 1 - - 3）で見直しと検討を加え、これらに沿った改修計画を推進している。

資料 8 - 1 - - 1

## 設置必要面積と保有面積の比較

単位：m<sup>2</sup>

区分番号	面積区分名称	調査単位番号	調査单位名称	保有面積	必要面積	自己整備保有面積（寄附等）	保有面積	要整備面積	備考
31	高等教育・研究施設	7010	工業高専校舎	16,886	17,358	0	17,186	172	
		7610	高専電算機施設	300					
32	高専図書館	7210	高専図書館	1,548	1,600	0	1,548	52	
33	高専体育施設	7310	高専屋内運動場	3,497	2,735	1,226	4,195	-234	
		7320	高専屋内運動場附属施設	698					
34	高専支援施設	7410	高専福利厚生施設	1,310	1,546	170	1,310	406	
35	高専宿泊施設	0000	職員宿舎	1,466	7,460	0	7,462	-2	
		7510	高専寄宿舍	5,996					
36	高専管理施設	7110	高専管理部	2,338	2,124	0	2,411	-287	
		7120	高専一般管理施設	73					
37	高専設備室等	7810	高専渡り廊下	109	432	109	541	0	
		7910	高専設備室	432					
	計			34,653	33,255	1,505	34,653	107	

(出典：会計課施設係)

本校では、各教室の面積（資料 8 - 1 - - 4）は78～116㎡（全25室中24室が80㎡以上）あり、文部科学省が定めた面積（約70㎡）と比較しても十分である。

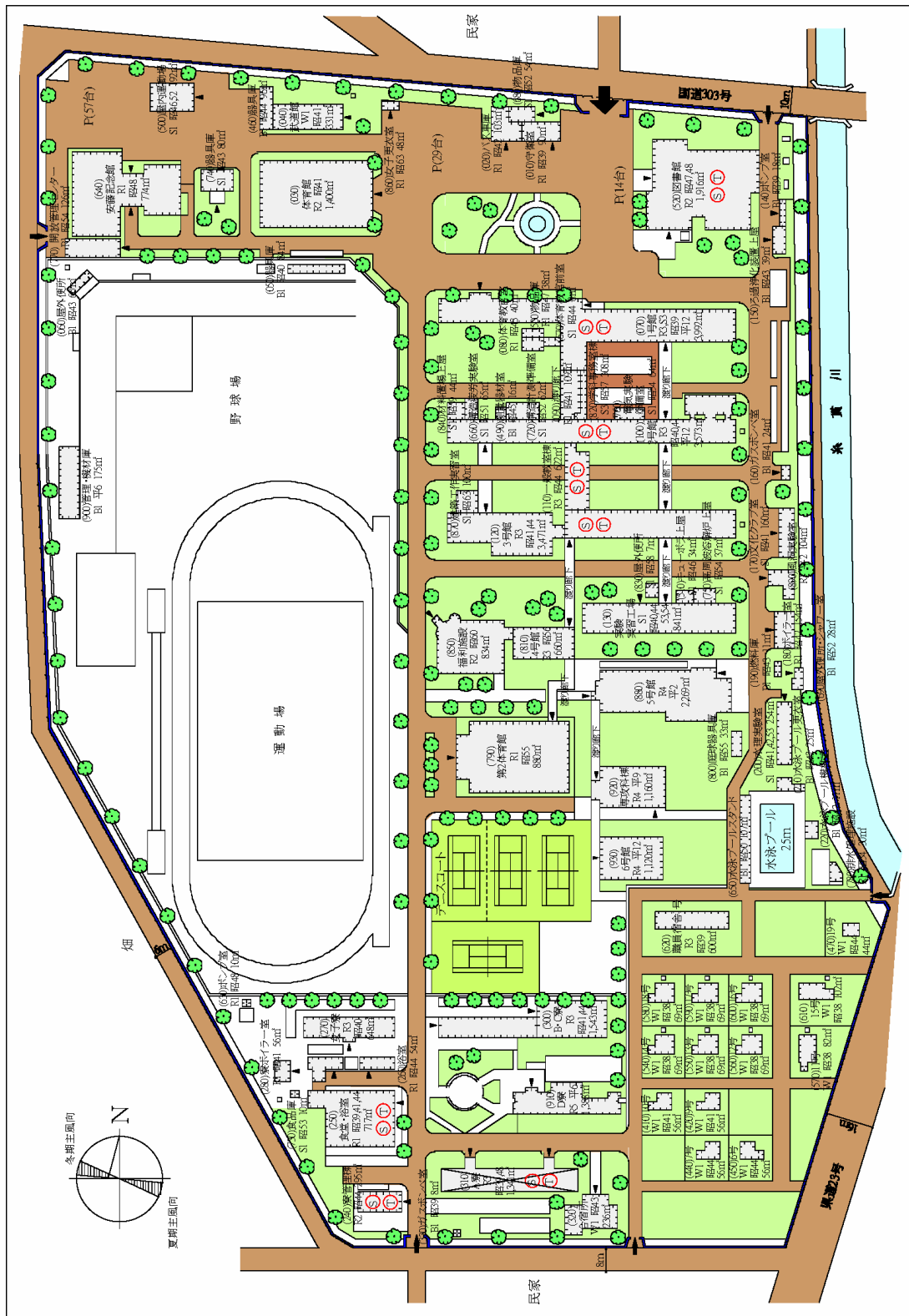
運動場・体育館などの体育関係の施設（資料 8 - 1 - - 5）も十分な面積を確保している。

図書館（資料 8 - 1 - - 6）などの一般的な施設のほか、情報処理センター（資料 8 - 1 - - 7）とLL教室（資料 8 - 1 - - 8）が整備され、それぞれ情報処理学習と語学学習に効果を発揮している。

また、第一学年および第二学年は一般科棟に、第三学年及び第五学年の教室は専門学科棟に、第四学年の教室はマルチメディア教育棟に配置している。第四学年の全ての学生用机にパソコンを設置し、マルチメディア教育を可能にしている。全ての教室はエアコンを有しており、環境を整備している。

資料 8 - 1 - - 2

配置図



(出典：会計課施設係)

## 資料 8 - 1 - - 3

## 国立学校施設長期計画書（表紙と目次）

## 国立学校施設長期計画書

平成 18 年度

岐阜工業高等専門学校  
[ 平成 18 年 5 月 1 日 ]

## 目 次

(1) 施設整備の基本方針	
教育理念・目標・・・・・・・・・・	1
施設整備の目標・・・・・・・・・・	6
キャンパス計画のコンセプト・・・・・・・・	6
(2) キャンパス計画図・・・・・・・・・・	7
(3) 計画施設配置図・・・・・・・・・・	8
(4) 説明資料	
①教育・研究体制の概要・・・・・・・・	9
②キャンパスの概要	
a. キャンパスの位置図・・・・・・・・	13
b. キャンパスの現状・・・・・・・・	14
c. 現状施設配置図・・・・・・・・	15
③施設整備の問題点と課題	
老朽・狭隘状況・・・・・・・・	16
不足・要改築面積の有無・・・・・・・・	18
機能関連上の問題点・・・・・・・・	19
⑥キャンパスのインフラストラクチャー・・・	20
⑦施設利用の考え方・・・・・・・・	21

( 出典：会計課施設係 )

## 資料 8 - 1 - - 4

## 「教室面積一覧」

教室面積一覧 (m<sup>2</sup>)

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年
機械工学科	85	88	80	82	87
電気情報工学科	88	88	80	82	87
電子制御工学科	88	85	87	82	87
環境都市工学科	78	88	80	82	116
建築学科	85	88	85	82	112

( 出典 施設資料より抜粋 )

## 資料 8 - 1 - - 5

## 「体育関係施設面積」

使用区分	面積	備考	使
校舎等	m <sup>2</sup> 50,975	野球場, サッカー, ラグビー場, 400m トラック 庭球コート (4 面), プール (25m 6 コース)	
グラウンド等	37,870		

## 体育施設等

第一体育館	SRC2	1,286	講堂兼用	
第二体育館	SRC1	885	バスケット	
武道館	W1	336	剣道	
安藤記念館	SRC1	789	卓球, 柔道	
屋内運動場	S1	193		
水泳プール	RC	660	25m 6コース	

(出典 学生便覧)

図書館の 1 階には閲覧室と書庫, 2 階には情報検索支援室を備えている。

## 資料 8 - 1 - - 6

## 図書館の整備状況

建物名	図書館	建築年	昭和47年
		構造・規模	鉄筋コンクリート造 2 階建
		建築面積	1,916m <sup>2</sup> (図書館 1・2 階 1,548m <sup>2</sup> )
主な部屋	閲覧室 329m <sup>2</sup>	ビデオルーム 121m <sup>2</sup>	保存書庫 81m <sup>2</sup>
	安全開架書庫 81m <sup>2</sup>	情報処理検索支援室 162m <sup>2</sup>	多目的ホール 191m <sup>2</sup>
閲覧席数	1階 87席	2階 30席	計 117席
			検索端末 3台
開館時間	月～金曜日 8:30～20:00	土曜日	9:00～16:00

(出典: 会計課施設係)

情報処理センターは、情報処理教育、C A I (計算機支援による教育)、C A D (計算機支援による設計) 教育および卒業研究、学術研究にも利用できる各科共通の施設として機能。平成 13 年に学内 L A N が更新され、12 台のワークステーションおよび教育用電算システムの 146 台のパ

ソコンが稼動している。

資料料 8 - 1 - - 7

### 情報処理センターの整備状況

建物名	図書館	建築年	昭和48年
		構造・規模	鉄筋コンクリート造 2 階建
		建築面積	1,916㎡ ( 図書館 2 階 300㎡ )
図書館 2 階	主な部屋		
メインシステム室	1室	71㎡	ワークステーション 12台
サブシステム室	1室	68㎡	センタースイッチ 2台
			フロントスイッチ 12台
			A T Mスイッチ 3台
			スイッチングハブ 100Mbps 16 p × 1
第 1 演習室	1 室	81㎡	学生用パソコン 48台 教師用パソコン 1台
			学生用プリンター 2台
			スイッチングハブ 100Mbps 16 p × 5
第 2 演習室	1 室	81㎡	学生用パソコン 48台 教師用パソコン 1台
			学生用プリンター 2台
			スイッチングハブ 100Mbps 16 p × 5
第 3 演習室	1 室	81㎡	学生用パソコン 48台 教師用パソコン 1台
			学生用プリンター 2台
			スイッチングハブ 100Mbps 16 p × 5

( 出典：会計課施設係 )

資料 8 - 1 - - 8

### 語学学習のための施設 ( L L 教室 ) の整備状況

建物名	1号館	建築年	昭和39年 平成12年
		構造・規模	鉄筋コンクリート造 3 階建 ( R 3 ・ S 3 )
		建築面積	3,992㎡
1号館 3階			
L L 教室	1 室	95㎡	( トレーナー室 1 室 21㎡ )
L L 装置	学生卓	48席	一式
入力装置	V T R L D	パソコン	オーバーヘッドカメラ カセットテープ
出力装置	プロジェクタ × 1 台	モニタ T V ( 天吊 ) × 4 台	

( 出典：会計課施設係 )

平成 1 2 年度に電気工学科が、情報を専門とする電気情報工学科に改組され、全学科への横断的な情報教育を実施している。特に第 4 学年には、より高度な情報教育・研究を優れた環境のもとで

実践させる必要があり、これらの情報教育・研究に適した「マルチメディア棟」(6号館)を設置し、第4学年を集約させ、高度な施設と設備のもとで教育・研究を行っている(資料8-1-9)。

このほか、学習環境を改善するために、全教室にエアコンが設置されている。

資料8-1-9

情報教育のための施設(6号館)の状況

建物名	6号館	建築年	平成12年
	(情報教育)	構造・規模	鉄筋コンクリート造4階建(R4)
		建築面積	1,120m <sup>2</sup>
主な部屋			
1階	クラスルーム	82m <sup>2</sup>	教材作成室 34m <sup>2</sup> 情報機器室 13m <sup>2</sup>
2階	クラスルーム	82m <sup>2</sup>	クラスルーム 82m <sup>2</sup>
3階	クラスルーム	82m <sup>2</sup>	クラスルーム 82m <sup>2</sup>
4階	大講義室	133m <sup>2</sup>	準備室 82m <sup>2</sup>

(出典：会計課施設係)

本校には実習工場が設置されており、機械加工に必要な基本的な工作機械や設備に加え、コンピュータを搭載したNC工作機械、自動化された生産工程を学習するためのFAシステムを保有している。(資料8-1-10)

機械工学科では1年生～4年生で実習授業が開講されており、下級生では工作機械・溶接設備・鋳造設備を利用した「ものづくり」の基礎を学び、NC工作機械のプログラミング、FAシステムの制御へと発展させている。さらに4年生では機械の設計・加工・組立といった一連の製造工程を体験する総合実習を行っている。電子制御工学科では1年生と2年生で実習授業が開講されており、工作機械を使った加工技術の学習に加えて、FAシステムとマイクロコンピュータによる機械制御実習を行っている。

また、実習授業だけでなく、ロボットコンテストや文化祭の展示物ための製作活動、中学生や一般の人々を対象とした「ものづくり」の公開講座等にも利用され、実習工場は学内外に開かれた「ものづくり」の総合拠点として発展しつつある。

## 資料 8 - 1 - - 1 0

## 実習工場の状況

建物名 実習工場 建築年 昭和44・53年  
 構造・規模 鉄骨造平屋建（S 1）（1 部中 2 階）  
 建築面積 1 階 781m<sup>2</sup> 2 階 60m<sup>2</sup> 計841m<sup>2</sup>

## 主な部屋

F A 工場 110m<sup>2</sup> 機械工場 273m<sup>2</sup> 鋳造工場 75m<sup>2</sup>  
 溶接工場 40m<sup>2</sup> 鍛造工場 30m<sup>2</sup> メカトロ実習場 87m<sup>2</sup>

## 代表的な設備（カッコ内は数量を示す）

旋盤（1 2） フライス盤（6） 形削り盤（1） シャーリングマシン（1） 研削盤（1）  
 電気炉（3） CNC 旋盤（2） CNC フライス盤（1） マシニングセンタ（2） 放電  
 加工機（2） CNC 成形平面研削盤（1） 産業用ロボット（2） 教育用ロボット（4）  
 アーク溶接機（6） ガス溶接装置（5） F A 教育実習システム（1）

## 実習の作業部門（カッコ内は主な内容を示す）

機械加工（旋削・ねじ切り・フライス加工・平面研削） 仕上げ（けがき・ヤスリがけ・穴あけ）  
 鋳造・鍛造（砂型鋳造・自由鍛造） 溶接（アーク溶接・ガス溶接） 自動組立て（教育用ロボットの操作・プログラム）  
 自動加工（CNC 旋盤・マシニングセンタ加工） 機械制御（マイコンによる機械制御）  
 電子組立て（電子部品の組立と基本操作） 生産の自動化（F A / F M S 技術）

（出典：会計課施設係）

平成 1 4 年度に、施設整備計画委員会において、全ての施設・設備について利用状況や安全性などの調査を行い、その結果が施設の点検・評価報告書にまとめられている（資料 8 - 1 - - 1 1）。

その報告書には、身障者対応施設の不備など若干の問題点とそれへの改善案が示されているが、施設・設備に関しては概ね有効な利用が図られているといえる。

建物等の安全管理については、耐震性能、ライフラインの管理、アスベストなどを現状把握するとともに計画的に改善し、安全な教育環境を目指し日常的に点検・整備を行っている。今後、安全管理の重要性に鑑み、より確実な安全管理システムの構築が必要となる。



## 資料 8 - 1 - - 1 1

## 教育・研究設備評価結果（表紙と冒頭）

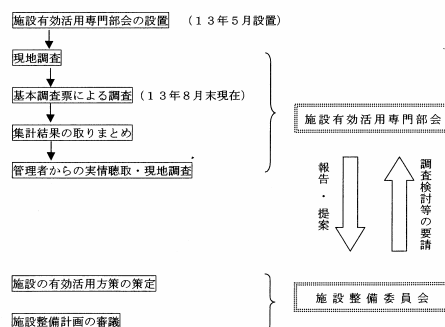
## 教育・研究施設の点検・有効活用等調査

教育・研究施設の点検・有効活用等調査について

## ○調査目的

国立大学及び高等専門学校の老朽化、狭小化が進んでいる現状の中、本校においても施設や教育・研究環境の劣悪さが顕在化している。今回、本校の施設全般について見直し等を行い、施設の自己点検・評価による施設の現状を的確に把握し、既存施設の効率的利用を含めた適正な整備計画の策定に資することを目的として、より快適で機能的な教育・研究環境の創造を目指す。

## ○点検・評価のフローチャート



平成14年4月

岐阜工業高等専門学校

（出典：会計課施設係）

## （分析結果とその根拠理由）

本校の施設・設備は高等専門学校設置基準の第6章「施設および設備等」を充足している。本校では、平成12年に作成された長期計画書に基づき、中期計画を達成するため、継続的に整備が図られている。既存施設については、平成14年度において施設の点検評価を実施し、稼働率の低い部屋等については、学科等を越えた共同施設とし、既存施設の有効活用に努めている。

今後、教育・研究の高度化および多様化に対応できる施設の整備を図るとともに、既存施設の耐震補強を含めた老朽化の解消および身障者対策の充実を図る必要がある。さらに、教育の高度化を推進するための先端設備の整備も急務である。また、安全な教育環境を構築するため、老朽化したライフラインの整備も併せて必要となる。

全ての教室が十分な面積を確保し、エアコンを設置している。第四学年はマルチメディア教育に対応しており、全ての机にパソコンを配備しているなど、教室に関しては充分整備し、有効に活用している。

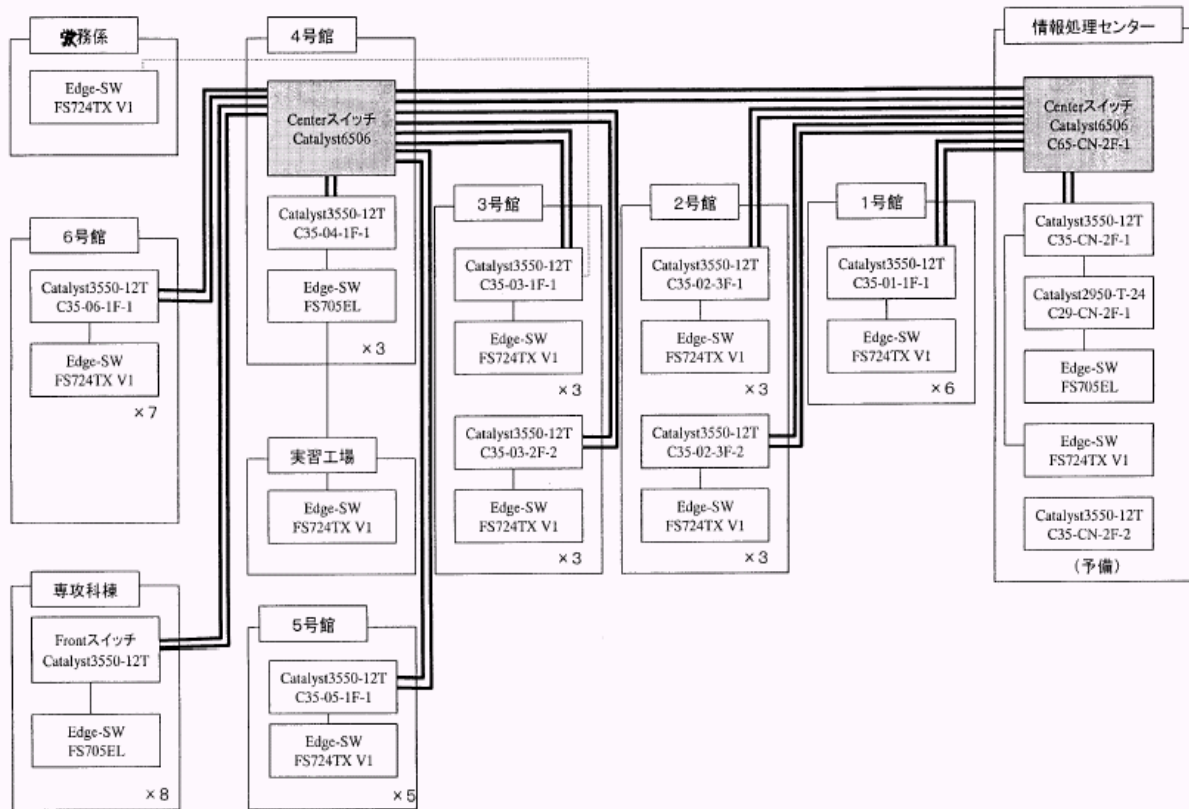
観点 8 - 1 - : 教育内容, 方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され, 有効に活用されているか。

( 観点に係る状況 )

本校の情報ネットワークシステムは, 情報処理センターをはじめとして 1 号館から 6 号館, 専攻科棟の事務・教育・研究棟を学内 LAN で結びさらに外部のネットワークと接続している。( 資料 8 - 1 - - 1 )

資料 8 - 1 - - 1 (1/2)

### 岐阜高専ギガビット学事情報ネットワークシステム

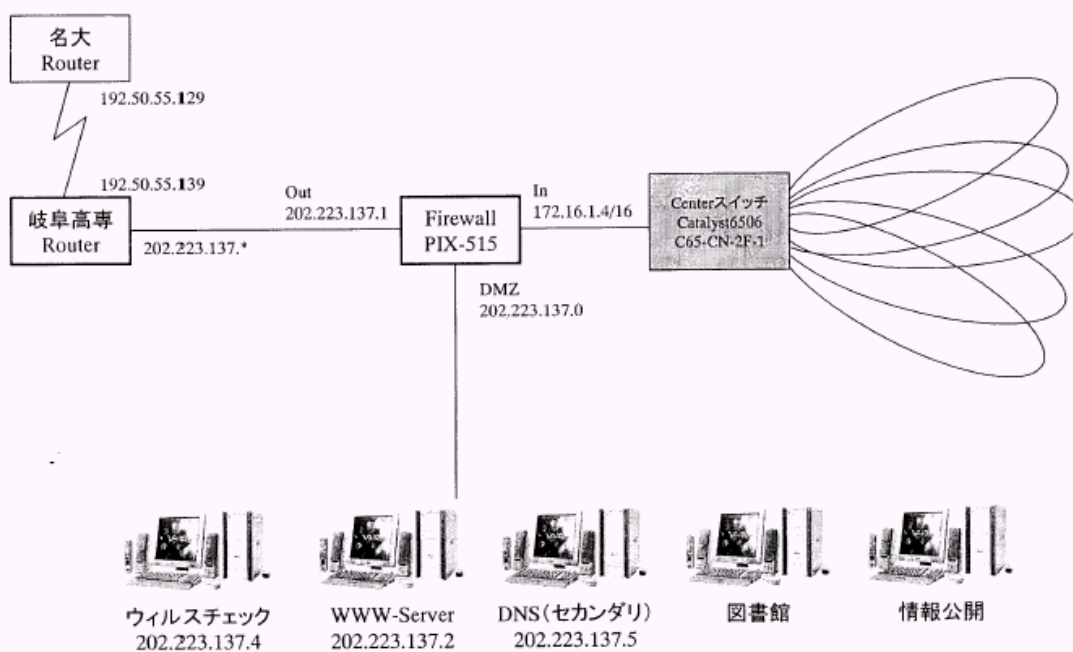


( つづく )

( 出典 情報処理センター資料 )

## 資料 8 - 1 - - 1 (2/2)

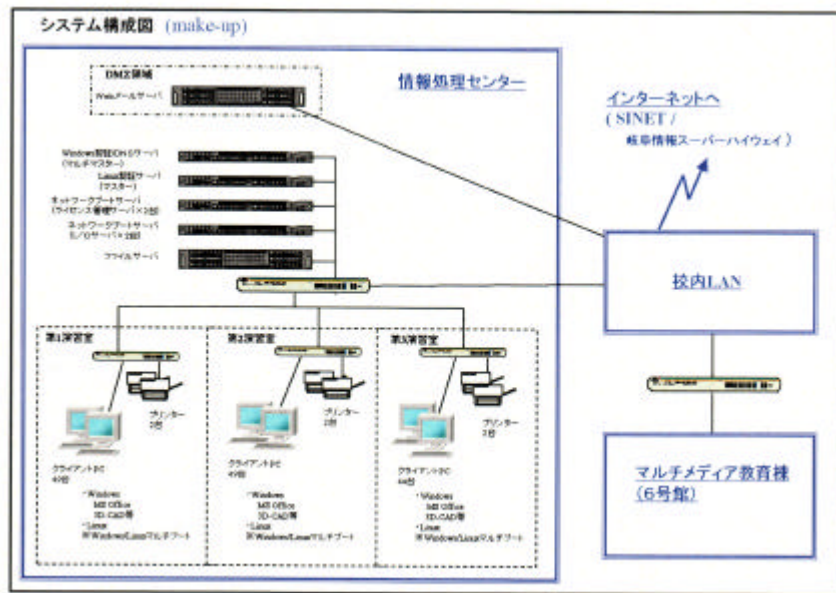
( 承前 )



( 出典 情報処理センター資料 )

情報処理センターのシステム構成図を資料 8 - 1 - - 2 に示す。

岐阜工業高等専門学校情報処理センター利用内規を資料 8 - 1 - - 3 に示す。情報処理センターを管理・運営する IT 戦略企画室部門委員会の内規を資料 8 - 1 - - 4 に示す。



( 出典 情報処理センター資料 )

## 岐阜工業高等専門学校情報処理センター利用内規

制定 昭和50 年2 月19 日

## (目的)

第 1 条 この内規は、岐阜工業高等専門学校情報処理センター運営規程第 5 条の規定に基づき、岐阜工業高等専門学校(以下「本校」という。)の情報処理センター(以下「センター」という。)の利用について必要な事項を定めることを目的とする。

## (利用者の範囲)

第 2 条 センターを利用できる者は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 本校の教職員
- 二 本校の学生で教職員が利用を承認した者
- 三 その他校長が許可した者

## (利用の手続)

第 3 条 センターの諸施設等を利用しようとする者(以下「利用者」という。)は、あらかじめ利用申込書に所定の事項を記入の上、これをセンター長に提出しなければならない。

- 2 前項にかかわらずセンター長が特に必要と認めた場合は、利用の手続を変更することができる。

## (利用の制限等)

第 4 条 次の各号の一に該当する利用申込みは、これを承認若しくは許可しないものとする。

- 一 利用の内容が情報処理センター設置の目的に反するもの。
- 二 その他センター長が利用を不相当と認めたもの。

## (利用方式)

第 5 条 センターの利用は、次の各号に掲げる方式によるものとする。

- 一 メインシステム室の利用方式は、原則としてクローズドショップ制とする。
- 二 第1 演習室、第2 演習室、第3 演習室及びサブシステム室の利用方式は、原則としてオープンショップ制とする。

## (利用できない日)

第 6 条 次の各号に掲げる日は利用できない。

- 一 日曜日
- 二 国民の祝日に関する法律(昭和23 年法律第178 号)に規定する休日
- 三 年末年始の休日(12 月29 日から翌年の1 月3 日までの日。ただし、国民の祝日に関する法律による休日を除く。)
- 四 春季、夏季、冬季及び学年末の休業期間中の土曜日
- 五 雄志寮が閉寮期間中の土曜日
- 六 その他センター長が必要と認めた日

- 2 前項にかかわらずセンター長が特に必要と認めた日は利用することができる。

(利用時間)

第 7 条 センターの利用時間は、次のとおりとする。ただし、必要があるときは、延長又は短縮を行う。

一 平日 8 時 30 分から 20 時まで

(ただし、17 時以降は第 1 演習室のみ利用可能)

(ただし、雄志寮が閉寮期間中は 17 時まで)

二 土曜日 9 時～16 時まで

(ただし、第 1 演習室のみ利用可能)

2 前項の利用時間以外に利用しようとするときは、あらかじめセンター長の許可を得なければならない。

(機器の操作)

第 8 条 メインシステム室内の機器を操作できる者は、次の各号に掲げる者とする。

一 本校の教職員で、センター長がコンピュータの使用について十分な知識と経験を有すると認めた者

二 本校の学生で、前号に定める教職員の指導のもとで操作する者

三 その他校長が許可した者

(利用の手引)

第 9 条 利用者は、この内規に定めるもののほか別に定める「コンピュータ利用の手引」に従わなければならない。

(利用の取消、停止)

第 10 条 利用者がこの内規に違反し、センターの運営に重大な支障を生じさせたとき、又は生じさせるおそれがあるとき、センター長は利用の承認又は許可を取り消し、若しくは利用を一定期間停止することができる。

(以下、省略)

(出典 学生便覧)

資料 8 - 1 - - 4

岐阜工業高等専門学校メディア委員会 I T 戦略企画部門委員会内規

平成16 年6 月2 日メディア委員会決定

( 設置 )

第 1 条 岐阜工業高等専門学校メディア委員会規程(平成 1 6 年学校規則第 1 8 号)第 7 条第 2 項の規定に基づき, 岐阜工業高等専門学校メディア委員会に, I T 戦略企画部門委員会(以下「部門委員会」という。)を置く。

( 審議事項 )

第 2 条 部門委員会は, 次の各号に掲げる具体的な事項について審議する。

- 一 情報通信ネットワークの企画, 研究開発及び維持管理に関すること。
- 二 I T 講習会等の企画立案に関すること。
- 三 I T 教育・研究の広報に関すること。
- 四 情報通信ネットワークに接続するハードウェアに関すること。
- 五 その他 I T 戦略企画に関すること。

( 組織 )

第 3 条 部門委員会は, 次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 I T 戦略企画室長
- 二 専任教員のうちからメディア委員会委員長が校長と協議の上, 指名した者をもって充てる。

( 委員長 )

第 4 条 部門委員会に委員長を置き, I T 戦略企画室長をもって充てる。

- 2 委員長は, 部門委員会を召集し, その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは, あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。

( 委員以外の者の出席 )

第 5 条 委員長が必要と認めたときは, 委員会に委員以外の者の出席を求め, 説明又は意見を聴くことができる。

( 庶務 )

第 6 条 部門委員会の庶務は, 庶務課において処理する。

( 雑則 )

第 7 条 この内規に定めるもののほか, 部門委員会の運営に関し必要な事項は, 部門委員会が別に定める。

附 則

この内規は, 平成16 年6 月2 日から施行する。

( 出典 メディア委員会資料 )

情報処理センターは第 1 演習室から第 3 演習室まであり, パソコンを校内 LAN に接続し, 授業(資料 8 - 1 - - 5 ) に使用され, また時間外に利用されている(資料 8 - 1 - - 6 )。

平成17年度情報処理センター利用状況

		月			火			水			木			金		
		第1演習室	第2演習室	第3演習室	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第1演習室	第2演習室	第3演習室
		情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理	情報処理
前期	I															
	II	コンピュータ数値II 2C 廣瀬	3D 福永		情報処理 4C 津村			英語A 4M 中谷	1C 亀山		英語総合B 2SK 亀山	5A 高原			英語A 1A 亀山	
	III				情報処理I 2M 中谷			数値計算法 5M 石丸			英語A 1M 亀山	5C 高原		情報処理II 3M 中谷		
	IV							情報処理I 3A 青木	機械設計製図 3M 石丸・山村		電子制御設計製図 2D 田中・畑中	機械設計製図 5M 奥川		情報工学 2SK 滝田・柴田		
後期	I	情報処理 4C 鈴木(幸)	設計製図I 3C 水野					英語A 1C 亀山	情報処理I 3A 柴田		建設工学実習 5C 高原					
	II	コンピュータ数値I 1C 鈴木(正)	電子制御設計製図 2D 田中・畑中		建築工学実習I 3A 下村・青木			ドイツ語 5A 高原	設計製図II 4C 水野	建設工学実習 1K 新木(正)・藤瀬・下村・角倉・青木	建築製図II 2A 青木・土井	情報処理 2D 福永	英語A 1M 亀山	電子制御設計製図 3D 白井・森	リモートセンシング 5C 津村	英語A 1A 亀山
	III	環境特論 5A 角倉	機械工学実習 4M					電気電子設計製図 1E 北川・三代	機械設計製図 3M 石丸・山村					情報処理I 2M 中谷		
	IV	アドバンスト制御 5D 打田	石丸・片瀬 稲葉・山村		電子制御工学実習 1D 福永							機械設計製図 2M 加藤・山村				

(出典 岐阜高専情報処理教育・研究報告 第32号2005)



平成17年度情報処理センター時間外利用実績

日 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
1日			31	11		12	17	0	14		27	
2日			14	16		16		5	10		34	
3日			9			14	9		36		25	
4日			17	17			6	12			34	
5日				17		8	8	29	2			
6日		13	4	7		6	8		2			23
7日	4	21	3	14		4	5	10	5			38
8日	7		5	12		25	16	19	8			27
9日	8	7	7	20		12		7	7			28
10日		6	7			37		24	15	17		36
11日	3	14	18	21			12	10				
12日	10	15		6		4	4	9	6	16		
13日	9	6	9	7		4	11		9	31		27
14日	11	15	3	2		2	14	14	13	24		8
15日	4		9	4		6	14	19	19			13
16日	21	11	19			0		15	21	18		7
17日		18	15			11	3	20	25	16		7
18日	7	6	20				9	24		12		22
19日	15	7					6	30	18	9		
20日	8	6	9			1	15		36	12		2
21日	20	20	8			8	7	17	18	19		4
22日	9		12			4	21	15	大雪警報			6
23日	21	24	21							28		2
24日		16	11			31	11	31		41		11
25日	7	7	19				9	9		31		29
26日	7	11				12	17	22		29		
27日	12	6	13			28	18			3		58
28日	17	36	16			23	15	28		27		45
29日			11			34	45	11				
30日		11	6			15		15		20		
31日		17				8	13			34		
利用人数	200	293	316	154		317	318	392	274	392	513	3,177
開放 平日	16	18	22	11	1	19	20	20	15	16	20	178
日数 土曜日	3	4	4	2		5	5	4	3	3	3	36

= 平日時間外開放日(17:00~20:00)  
 = 土曜日開放日(9:00~16:00)  
 = 時間外開放なし  
 開放演習室(第1演習室) パソコン台数=49台

14.85

(出典 情報処理センター資料)

情報処理センター以外の事務，教育，研究棟にもネットワークに接続されたコンピュータが多数存在しており，教員や学生の研究教育に利用されている。(資料 8 - 1 - - 7)

資料 8 - 1 - - 7

現在，ネットワークに接続されたコンピュータは，研究・事務用では 500 台を超え，情報処理センター演習室サブネットには Win2000 サーバに 150 台のクライアントを設置し，更に 6 号館教室に 250 台のクライアントを設置し教育用に利用している。また，今後本校が推進するパソコンを駆使した，マルチメディア教育の充実を図るためには，大容量の画像データを同時に多数の学生が高速で閲覧できる環境を整えなければならない。更に，本校が広く一般に情報を提供しようとする場合，その情報は不正アクセス等の脅威にさらされることとなり，特に個人情報の安全性確保が急務である。そこで，レイヤ 3 レベルでの VLAN による利用者単位（学科等）のサブネット化による効率化をはかり，画像・動画配信(Quick Time Streaming, SCS, MUPS, 岐阜情報スーパーハイウェイ)に対応したネットワークを構築する。また，外部からの不正アクセス，ウィルスの脅威からネットワークの安全性を確保する。以上を目的として，校内 LAN の再構築を行い，ギガビットネットワークシステムを導入する。

(出典 G A I N 2 仕様書)

ネットワークには情報セキュリティポリシーに従ってセキュリティ機器が設置されており(資料 8 - 1 - - 8)，FireWall(資料 8 - 1 - - 1 (2/2))とウィルス駆除用ハードウェアおよびソフトウェアによって保護されている。(資料 8 - 1 - - 9)

資料 8 - 1 - - 8

## 5．情報セキュリティ機器

情報セキュリティ組織は，セキュリティを最大限確保するために，ファイアウォール装置，侵入検知装置等のセキュリティ機器を設置・維持・管理しなければならない。情報セキュリティ機器の設置および運用は，少なくとも以下のような基準を満たさなければならない。

### (1) 情報セキュリティ機器の最新性

セキュリティ組織は，セキュリティ機器を可能なかぎり最新のものに保つよう努めなければならない。

### (2) 問題への迅速な対応

情報セキュリティ機器等で，セキュリティ上重要と考えられる事象が発見された場合，セキュリティ組織は，遅滞なく必要な対策をとらなければならない。

### (3) ネットワーク通信の監視

情報セキュリティを確保するためには，ネットワーク通信の監視が不可欠であり，構成員には，ネットワーク通信の監視が行われることを通知し，その了承を求めなければならない。

### (4) 情報公開

情報セキュリティ組織は，情報セキュリティ機器の運用状況をセキュリティ維持と矛盾しない範囲でできるだけ詳細に構成員に公表しなければならない。

(出典 岐阜工業高等専門学校情報セキュリティポリシー)

資料 8 - 1 - - 9

### セキュリティシステムの概要

#### 1. Net Shelter / VW (ウイルス駆除用ハードウェア)

外部からの接続を制限する機能を持ち、SMTPプロトコルが外部メール(中継)サーバを総て通過するようにネットワークを構成し、ウイルスメール等の検出及び駆除を行っている。

#### 2. Symantec Antivirus スクールライセンス

(ウイルス対策用ソフトウェア)

校内全員が使えるライセンスを購入し総てのWindowsパソコンにインストールされている。

#### 3. Surf Control (フィルタソフトウェア)

教育用システムのサーバにインストールされており、学生用パソコン(情報処理センター・6号館)から不適切なWebの閲覧を制限している。

(出典 情報処理センター資料)

#### (分析結果とその根拠理由)

本校は情報処理センターや事務・教育・研究棟の多数のコンピュータがLANで接続され、外部のネットワークとも接続されている。これらはセキュリティで保護され、授業や研究、時間外での利用が盛んに行われている。またネットワークに対する学生の要望は寄せられていない。これらのことから本校では教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。

観点 8 - 2 - : 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校図書館は、図書館運営規程(資料 8 - 2 1)に基づき、学生、教職員及び地域住民のために、(1) 資料(図書、雑誌)の閲覧および貸出、(2) その他の資料(新聞、視聴覚資料[VTR, CD, DVD など]、電子ジャーナル)の閲覧および利用、(3) 蔵書検索および文献検索(雑誌二次データベース利用)とその利用講習、(4) 各種資料(岐阜高専紀要[現在 41 号]、岐阜高専図書館だより[現在 35 号])の発行、(5) 図書館利用の案内および指導、など多数のサービスを実施している。

資料 8 - 2		1
岐阜工業高等専門学校図書館運営規程		
制定 昭和 56 年 12 月 19 日		
学校規則第 7 号		
(目的)		
第 2 条 図書館は、教育及び研究に必要な図書館資料を収集、整理、管理し、本校教職員、学生及び一般利用者の利用に供することを目的とする。		
(定義)		
第 3 条 前条に規定する「図書館資料」とは、次の各号に掲げるものをいう。		
一 図書(一般図書、参考図書)		
二 図書以外の資料(視聴覚資料、特殊資料)		
(館長の職務)		
第 4 条 館長は、校長の命を受けて次の事項を掌理する。		
一 図書館の運営及び管理に関すること。		
二 図書館資料の収集及び選定に関すること。		
三 図書館資料の利用指導に関すること。		
四 紀要の発行に関すること。		
五 その他図書館活動に関すること。		
(一般開放)		
第 5 条 地域社会の進展に寄与するため、一般利用者に対し、図書館の利用を認めることができる。		
(出典 ホームページ)		

次に、本校図書館が所蔵する各種資料の数を資料 8 - 2 2 に示す。

資料 8 - 2				2
岐阜工業高等専門学校図書館が所蔵する各種資料の数				
1 ) 図書				
		平成 15 年度末	平成 16 年度末	平成 17 年度(12/13)
和	書 :	58,369 冊	61,274 冊	61,758 冊、
洋	書 :	9,751 冊	9,810 冊	9,845 冊
合	計 :	68,120 冊	71,084 冊	71,603 冊

## 2) 雑誌

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
学術雑誌：	90 種	76 種	76 種
一般雑誌：	134 種	115 種	115 種
合 計：	224 種	191 種	191 種

## 3) その他

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
電子ジャーナル及び 二次データベース	2 種	4 種	4 種
新 聞	11 種	11 種	11 種
視聴覚資料			
V T R ( V H S )	172	182	182
L D	114	114	114
D V D	58	76	113

(出典 図書館資料)

さらに、図書館資料の分類別の資料数を資料 8 - 2 - 3 に示す。

## 資料 8 - 2 - 3

## 岐阜工業高等専門学校図書館が所蔵する資料の分類別資料数

## 人文科学

総記	1 6 8 9 冊	哲学・宗教	2 4 2 1 冊	歴史・地理	5 4 6 1 冊
社会科学	6 0 5 6 冊	芸術	3 1 5 4 冊	言語	3 4 2 0 冊
文学	1 1 7 2 1 冊				

## 自然科学・医学薬学

科学理論他	1 4 4 1 冊	数学	6 7 4 1 冊	物理学	4 0 7 9 冊
化学	1 5 7 7 冊	地学	8 5 4 冊	生物学・植物学・動物学	6 5 3 冊
医学	1 0 7 4 冊	天文学	2 3 3 冊		

## 工学・技術

工学基礎学他	5 6 7 2 冊	土木工学（建設）	5 8 3 6 冊	建築学	5 6 6 7 冊
機械工学	3 4 1 9 冊	電気工学	6 7 7 5 冊	化学工業	4 3 1 冊
海事工学・採鉱冶金学・製造工業・家事	2 8 0 冊				

産業 8 6 9 冊

(出典 図書館資料)

本校図書館においては図書等の整備方針（資料 8 - 2 - 4）に従って、受け入れ図書の決定をしている。

## 資料 8 - 2 4

## 図書館及び図書の整備方針

- ・ 図書館の利用促進と効率化を図る。

蔵書の増加と書架の増設を目指す。年間 500 冊程度の増加で平成 20 年度には 7 万 5 千冊以上の蔵書を達成させる。

- ・ 地域図書館との連携

岐阜県内の図書館間の蔵書データベースの検索システム「岐阜県横断検索」に平成 17 年度参加

- ・ 長岡技大提案による長岡 - 高専統合図書館システムに平成 19 年度参加予定
- ・ 受け入れ図書の決定方法として、学生推薦図書はメディア委員会の議を経て、学科及び専攻科各教員に選書させて購入する。

( 出典 図書館資料 )

最近 3 年間における図書の受け入れ実績を資料 8 - 2 5 に示す。平成 17 年度以降、教員の購読済み雑誌や研究済み図書の図書館への集中化を呼びかけており、図書と雑誌の有効活用を推進している。

## 資料 8 - 2 5

## 図書受け入れ実績

- ・ 最近 3 年間の受け入れ実績

平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
344 冊	295 冊	236 冊

- ・ 学生が図書館に備えて欲しい図書は図書リクエスト用紙に記入して図書館へ提出させる。実績はつぎのとおり。

平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
62 冊	90 冊	20 冊 ( 12/13 )

- ・ 1 学年、4 学年の各学級 2 名 ( 計 20 名 ) を引率して大型書店でブック・ハンティングを行い、学生が選書した図書はメディア委員会の議を経て、購入している。

平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
-	204 冊	177 冊

( 出典 図書館資料 )

本校図書館では、利用の促進、地域への貢献を図るために以下の取組みを実施している（資料 8 - 2 6）。

資料 8 - 2 6

利用の利用促進，地域への貢献を図るための取組み

- 1) 夜間（17:10～20:00）、土曜日（9:00～16:00）も開館して学生の自主的学習環境を整えている。
- 2) 学生の卒業研究、実験レポートの提出や宿題などの資料の調査、収集ができるように、本校図書館をはじめ岐阜県下図書館及び全国大学図書館の資料（文献、図書等）が検索できる検索用パソコンを設置して IT 化に努力している。
- 3) 学生が選書しやすいように図書を系統的に分類して書架の配置など工夫をしている。
- 4) 毎年、読書感想文・自由投稿文コンクールを実施して、学生に図書を読ませる習慣を付けさせ、図書館を利用させている。
- 5) 課外授業、卒業研究等に利用できるグループ学習室として、ビデオルームが準備されている。
- 6) 平成 17 年度に基礎専門の洋書約 1000 冊を配架することにした。
- 7) 文献検索マニュアルを整備して、文献検索講習会を実施している。
- 8) 新入生ガイダンスの折りに図書館利用の説明を行っている。
- 9) 学内外の利用者に対して図書館に関するアンケート調査を実施している。
- 10) 近隣の高等学校、中学校、市町村役場及び教育委員会等に一般開放の案内ポスターを送付している。一般開放の案内を近隣の市町村広報誌への掲載に努めている。
- 11) 毎年、図書の企画展示を実施している。

（出典 図書館資料）

本校図書館における利用実績等（図書等貸し出し数、図書館入館者数）を資料 8 - 2 7 に示す。

資料 8 - 2 7

図書等貸し出し数及び図書館入館者数

・図書等貸し出し数

平成 15 年度：6,281 冊	（学外者：116 冊）
平成 16 年度：8,627 冊	（学外者：70 冊）
平成 17 年度：5,168 冊	（学外者：77 冊）（12/14）

・図書館入館者数

平成 15 年度：45,063 人	（学外利用者：73 人）
平成 16 年度：48,601 人	（学外利用者：105 人）
平成 17 年度：32,344 人	（学外利用者：109 人）（11/30）

（出典 図書館資料）

また、資料 8 - 2 - - 8 に示すように、定期試験の時期（6 月、9 月、2 月）には多数の学生が図書館を利用している。

資料 8 - 2 - - 8					
定期試験時期の図書館入館者数					
	年度	月平均	6 月	9 月	2 月
時間内入館者数	平成 16 年	3 3 2 0 人	4 5 2 3 人	5 1 0 3 人	3 7 0 8 人
	平成 17 年	3 2 9 1 人	3 6 7 1 人	4 2 6 7 人	4 9 5 8 人
時間外入館者数	平成 16 年	5 4 4 人	9 1 6 人	8 1 7 人	9 5 2 人
	平成 17 年	6 0 0 人	6 2 8 人	9 9 4 人	1 0 1 8 人
土曜日入館者数	平成 16 年	1 8 5 人	3 0 7 人	2 9 2 人	2 2 7 人
	平成 17 年	1 9 6 人	2 7 4 人	4 7 0 人	2 3 6 人
( 出典 図書館資料 )					

#### （分析結果とその根拠理由）

図書館には、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究に必要な資料が、特定の分野に大きく偏ることなく系統的に整備され、学習および研究の遂行に便宜が図られている。これらは本校学生や教職員のみならず、地域貢献の一環として地域の住民にも開放されている。さらに W e b 上で蔵書を検索できるシステム（O P A C）が稼働しており、また平成 17 年度からは、岐阜県横断検索システムに参加して岐阜県下の大学、公立図書館の多くの充実した図書、学術雑誌、視聴覚資料も共用し易くなった。

また、リクエスト図書やブック・ハンティングにより学生の希望する図書を受け入れるシステムを設けるなど、図書等の整備方針に従って計画的に蔵書等が整備されている。

そして、読書感想文コンクールなどを実施して図書館への関心を高め、図書館の利用を促進するよう努力している。また、土曜日および夜間開館の実施により学生および一般利用者の利便性が高められており、さらに専攻科学生を対象に文献検索講習会を実施するなど、電子ジャーナル、二次データベースの活用を推進している。これらの施策により利用者数および貸出図書数は徐々に増加しており、とりわけ定期試験の期間には高い利用度で図書館が活用されている。



## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

全ての教室が十分な面積を確保し、エアコンを設置している。第四学年の教室はマルチメディア教育に対応しており、全ての机にパソコンを配備し、ほとんどの授業がこの教室で実施されている。稼働率の低い部屋等については、学科等を越えた共同施設とし、既存施設の有効活用に努めている。

情報ネットワークシステムは教職員のボランティア組織により、機動的かつ計画的に運用されている。

図書館は岐阜県横断検索システムに参加して、岐阜県下の大学や公立図書館の所有する資料を容易に利用できる。またリクエスト図書やブック・ハンティングにより学生の希望する図書を受け入れる体制を設けている。文献検索講習会を実施して、電子ジャーナル、二次データベースの活用を推進している。

## (改善を要する点)

既存施設の耐震補強、ライフラインの整備を含めた老朽化の解消および身障者対策の充実を図る必要がある。後者については各施設の一階部分にスロープを設置したが、2階以上にあがることは出来ないので、エレベーターの設置が急務である。

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

施設・設備は高等専門学校設置基準を充足しており、長期計画に基づいて継続的に整備が図られている。既存施設については点検評価に基づいて、稼働率の低い部屋等を共同施設とするなど有効活用が図られている。今後、教育・研究の高度化および多様化に対応できる施設の整備を図るとともに、既存施設の耐震補強を含めた老朽化の解消および身障者対策の充実を図る必要がある。さらに、教育の高度化を推進するための先端設備の整備も急務である。また、安全な教育環境を構築するため、老朽化したライフラインの整備も併せて必要となる。

校内の多数のコンピュータを有機的に結合し、外部ネットワークと接続される校内LANは、十分な程度のセキュリティ管理の下に適切に整備されている。ネットワークは、教育内容、方法や学生のニーズを満たしており、盛んに利用されている。

図書館には教育研究に必要な資料が、特定の分野に大きく偏ることなく系統的に整備され、学生や教職員、地域の住民に開放されている。さらに蔵書検索システムが稼働しており、かつ、岐阜県横断検索システムに参加して岐阜県下の大学、公立図書館の資料が利用し易くなっている。また、リクエスト図書やブック・ハンティングにより学生の希望する図書を受け入れる体制を設けるなど、計画的に蔵書等が整備されている。本校の教育・研究に関する活動内容を取り纏めた紀要が定期的に発行され、本校の活動を広く社会に公開する一方、読書感想文コンクールなど、図書館の利用を促進する努力がなされている。さらに専攻科学生を対象に文献検索講習会を実施し、電子ジャーナル、二次データベースの活用を推進している。これらの施策により図書館の利用度は徐々に高まっている。